Human Developmental Research
2024.Vol.38, 169-174

学級環境による高い感覚処理感受性を持つ子どもの強みの検討
（中間報告）

北海道教育大学旭川校　水　野　君　平
甲南大学人間科学研究所*　谷　口　あ　や

Examination of the Strengths of Children with High Sensory Processing Sensitivity in Classroom Environments

Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus, MIZUNO, Kumpei
Institute of Human Science, Konan University, TANIGUCHI, Aya

要　約

環境からの影響の受けやすさの気質的側面を示す感覚処理感受性についての知見は蓄積されているが，環境について学級を対象とした知見は少ない。そこで本研究は小中学生を対象にし，肯定的な学級環境によって感覚処理感受性の高い子どもほどより適応的になるのかを検討する。具体的には，社会的目標構造が高い学級では感覚処理感受性が高い子どもは，そうでない子どもと比べて学級環境の影響を受けやすくなり，内発的動機づけ，向社会的行動，学校適応感などが高くなるかをマルチレベル分析から検討する。本研究の中間報告では，現在実施中のアンケート調査の計画について報告する。
【キーワード】感覚処理感受性，向社会的行動，内発的動機づけ，学校適応，学級風土

Abstract

Research has accumulated insights into the temperament aspect of sensory processing sensitivity, which reflects susceptibility to environmental influences. However, there is limited knowledge regarding the impact of the environment specifically within the context of classrooms. Therefore, this study focuses on elementary and middle school students, aiming to investigate whether children with higher sensory processing sensitivity adapt more adaptively in a positive classroom environment. Specifically, the study examines whether in classrooms with a high socioemotional goal structure, children with high sensory processing sensitivity are more susceptible to the influence of the classroom environment compared to their counterparts with lower sensitivity. The study further explores if this susceptibility leads to higher levels of intrinsic motivation, prosocial behavior, and school adjustment. The interim report of this research provides details on the ongoing survey and its planned methodology.
【Keywords】sensory processing sensitivity, prosocial behavior, intrinsic motivation, school

* 現所属：三重大学

adjustment, classroom climate

問題と目的

どのような要因が児童生徒の学校適応に結びつくのかを検討することは児童生徒のより良い学校生活を考えるだけでなく，生徒指導上の課題を解決するためにも大切である。例えば現在，日本における不登校児童生徒数が過去最多に増加しており，不登校は生徒指導上の現代的課題の１つで，不登校問題を考える上でも児童生徒の学校適応を検討することは重要なトピックである。児童生徒の学校適応に影響を及ぼす要因を検討した研究は数多いが，本研究では個人差として感覚処理感受性と学級環境として社会的目標構造に焦点を当てる。

感覚処理感受性

感覚処理感受性とは環境からの影響の受けやすさを示す気質的な個人差である（Greven et al.,2019）。これまでは，感覚処理感受性の高さは個人の脆弱性として挙げられる「ストレス素因理論」の枠組みで考えられることが多かった。しかし，近年では感覚処理感受性の高さは良好な環境からはより多くの利益を受け，良くない環境からはより多くの悪影響を受けるという「差次感受性」のモデルが提案されており（Belsky & Pluess, 2009），中立的に捉えられるようになった。このモデルをもとに日本でも思春期を対象とした学校移行，ソーシャル・スキル・トレーニングに対する効果など（Iimura & Kibe, 2020；Kibe et al., 2020），学校教育に関する研究が蓄積されてきており，感覚処理感受性の高さは環境からの影響をいい方向にも悪い方向にも受けやすいことが示唆されてきた。すなわち，肯定的な環境があれば感覚処理感受性は脆弱性とならずむしろ肯定的な発達を支える要因となることが示唆されている。

肯定的な環境としての社会的目標構造

本研究では肯定的な環境として学級の効果に着目する。例えば，いじめに反対する規範が強い学級において子どもは肯定的な影響を受ける（外山・湯，2020）というように，学級は児童生徒の行動に影響する。そして特に日本の学級は諸外国と比較しても学習集団としての機能だけでなく，特別活動や掃除，給食などを共にして過ごすというように生活集団の機能も有しており，集団の中での生活は子どもの発達にとって重要である（河村，2010）。生活の場として学級が機能することから，特に日本では肯定的な学級環境であることが感覚処理感受性の高い子どものよりよい学校生活に繋がることが推察される。しかし，国内おける感覚処理感受性の研究は近年になって研究知見が蓄積されている途上であり（飯村，2022），加えて諸外国の研究をみても学級環境に焦点を当てた感覚処理感受性の研究が十分に行われておらず，日本においても知見が蓄積されている途上にある。そこで本研究では，感覚処理感受性の高さは学級環境によっては児童生徒に肯定的な影響を持つかどうかについて，学級の社会的目標構造の観点から検討する。

社会的目標構造とは学級で共有された社会的コンピテンス（能力）に関する目標構造とされており（大谷他，2019），「先生の言うことを守りましょう」や「他者に親切にしましょう」といった友人関係や生活場面において学級で共有されるルールである。これらの社会的目標構造が高い学級ほど，自律的な動機づけが高まり，向社会的行動が促されることが明らかにされている。

以上を踏まえ本研究では社会的目標構造が高い学級では感覚処理感受性が高い子どもはそうでない子どもと比べて学級環境の影響を受けやすくなり，その結果より適応的となるかどうかを検討する。また，従来の研究ではウェルビーイングや単一の心理指標がアウトカムに用いられることが多かったが（Iimura & Kibe, 2020；Kibe et al., 2020），本研究では子どもの適応への影響を多面的に測定することを目指し，内発的動機づけと向社会的行動だけでなく学校適応感もアウトカムの指標とする。

方　法

調査協力者

小学校 5 年生から中学校 3 年生を対象とするアンケート調査を行う。調査は北海道教育大学の倫理審査を経て実施する。アンケートはすべて学校ごとに作成した Google Form による無記名 Web アンケートを協力学級の任意のタイミングに実施する。回答時には児童生徒に自身の学級を回答してもらうことによって回答者の学級を同定する。

調査内容

デモグラフィック項目　性別（男・女・その他），学年，年齢を尋ねた。

感覚処理感受性　日本語版児童期用敏感性尺度（岐部・平野，2019）を尋ねた。11 項目で 7 件法（「全く当てはまらない（1 点）」から「非常によく当てはまる（7 点）」）であった。

社会的目標構造　社会的目標構造尺度（大谷他，2016）を尋ねた。下位尺度に「規範遵守目標構造」と「向社会的目標構造」が含まれており，14 項目 5 件法（「全く当てはまらない（1 点）」から「とても当てはまる（5 点）」）であった。

内発的動機づけ　内発的興味（田中・山内, 2000）を尋ねた。本来は 6 項目であったが（田中・山内, 2000）の分析でも除外された 1 項目を除いた 5 項目 5 件法（「全く当てはまらない（1 点）」から「とても当てはまる（5 点）」）であった。

向社会的行動　友だちへの向社会的行動尺度（村上他，2016）について山本他（2021）と同様の改変を行い，友人ではなく「同じ学級の友だち」に対する行動を尋ねた。6 項目で 4 件法（「やったことがない（1 点）」から「いつもした（4 点）」）であった。

学校適応感　日本語版・学校への親和性尺度（飯田他，2019）を尋ねた。5 項目で 6 件法（「全然当てはまらない（1 点）」から「とてもよく当てはまる（6 点）」）であった。

現在の進捗状況

調査時期は 2023 年 12 月から 2024 年 1 月を予定している。現時点で回答が完了した協力校は小学校高学年 4 学級, 中学校 21 学級の小中学生 689 名である。調査が完了した協力校には調査完了後, 集計表や簡単な解析結果を個別フィードバックとして返却している。1 月中には既に協力を取り付けた小学校高学年 12 学級からの協力が予定されている。

引用文献

Belsky, J., & Pluess, M. (2009). Beyond diathesis stress: Differential susceptibility to environmental influences. Psychological Bulletin, 135(6), 885−908.

Greven, C. U., Lionetti, F., Booth, C., Aron, E. N., Fox, E., Schendan, H. E., Pluess, M., Bruining, H., Acevedo, B., Bijttebier, P., & Homberg, J. (2019). Sensory Processing Sensitivity in the context of Environmental Sensitivity: A critical review and development of research agenda. Neuroscience and biobehavioral reviews, 98, 287−305.

飯田順子・伊藤亜矢子・青山郁子・杉本希映・遠藤寛子（2019). 日本語版ソーシャル・エモーショナル・ヘルス・サーベイの作成　心理学研究 , 90(1), 32-41.

Iimura, S. & Kibe, C. (2020). Highly sensitive adolescent benefits in positive school transitions: Evidence for vantage sensitivity in Japanese high-schoolers. Developmental Psychology, 56(8), 1565-1581.

飯村周平（2022).　HSP の心理学 :「科学的根拠 (エビデンス)」でわかる繊細さ・生きづらさの正体　金子書房

河村茂雄（2010). 日本の学級集団と学級経営　図書文化

Kibe, C., Suzuki, M., Hirano, M., & Boniwell, I. (2020). Sensory processing sensitivity and culturally modified resilience education: Differential susceptibility in Japanese adolescents. PloS one, 15(9), e0239002.

岐部智恵子・平野真理（2020). 日本語版児童期用敏感性尺度 (HSCS-C) の作成 . パーソナリティ研究 , 29（1）8-10.

村上達也・西村多久磨・櫻井茂男（2016). 家族 , 友だち , 見知らぬ人に対する向社会的行動―対象別向社会的行動尺度の作成　教育心理学研究 , 64(2), 156-169.

大谷和大・岡田 涼・中谷素之・伊藤崇達（2016). 学級における社会的目標構造と学習動機づけの関連―友人との相互学習を媒介したモデルの検討　教育心理学研究 , 64(4), 477-491.

山本琢俟・河村茂雄・上淵寿（2021). 学級の社会的目標構造とクラスメイトへの自律的な向社会的行動との関連―小中学生の差異に着目して―. 教育心理学研究 , 69(1), 52-63.

田中あゆみ・山内弘継（2000). 教室における達成動機 , 目標志向 , 内発的興味 , 学業成績の因果モデル

の検討　心理学研究 , 71, 317-324.
外山美樹・湯立（2020）. 小学生のいじめ加害行動を低減する要因の検討―個人要因と学級要因に着目して―. 教育心理学研究 , 68(3), 295-310.

謝　辞

本研究の調査に際して北海道教育大学旭川校の山中謙司先生，北海道教育大学札幌校の中島寿宏先生にご協力いただきました。また，調査協力いただきました学校の先生方，児童生徒の皆様に感謝申し上げます。